

事業評価シート

事業名	路線バス（安八穂積線）運行負担金事業				
担当課	企画部 総合政策課				
事業期間	開始年度：平成30年度				
根拠法令等	—				
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託（委託先： ） <input type="checkbox"/> 指定管理（管理者： ） <input type="checkbox"/> 補助金（補助先： ） <input checked="" type="checkbox"/> その他（負担金（支払先：名阪近鉄バス））				
事業概要	沿革・経緯等	瑞穂市南部への交通手段の確保や南部地域（大垣市や安八町など）からJR穂積駅までの移動手段を確保することで、JR穂積駅周辺の活性化を図り、また圏域の拠点化を目指し、平成30日より運行開始。			
	目的・必要性（何のために）	瑞穂市南部地域住民の交通の維持、穂積駅周辺の活性化（交流人口・関係人口の増加）			
	対象（誰、何を対象に）	地域住民、沿線住民、穂積駅利用者等 経路：瑞穂市-大垣市-安八町 穂積駅~朝日大学~野田新田~野白新田~犀川~大垣市墨俣~大垣桜高校~安八町役場~安八温泉			
	内容（手段、手法など）	民間事業者によるバス運行に係る経費への一部負担 運行経費から運賃収入・国庫補助等を差し引いた額を瑞穂市と安八町で走行距離割(R4 42.1%)、利用者割(同67.5%)で按分して(同54.8%)負担。			

		令和5年度 (決算見込)	令和4年度 (決算)	令和3年度 (決算)	令和2年度 (決算)		
コスト	事業費 (千円)	内訳	路線バス運行費負担金	10,996	9,991	9,902	6,307
総 額		10,996	9,991	9,902	6,307		
財源内訳 (千円)	内訳	国・県	0	0	0	0	
		市債	0	0	0	0	
		基金	10,760	9,227	9,900	6,300	
		その他（ ）	0	0	0	0	
		一般財源	206	764	2	7	
総 額		10,996	9,991	9,902	6,307		

事業実績	【実績指標名】	単位	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
			(見込値/目標値)	(実績値/目標値)		
	利用者数（年間延べ）	人	34,454/28,674	28,390/27,530	27,257/23,142	22,913/-
			/	/	/	/
			/	/	/	/

見直し・改善状況	・沿線市町、運行事業者、関係機関との情報共有と利用促進策・今後の展開に向けた検討
----------	--

比較参考（他自治体や民間事業者での類似事業等）	岐阜バス大野穂積線⇒4市町で運行費を全額負担。 名阪近鉄バス岐垣線⇒沿線市町で運行費を全額負担。 名阪近鉄バス羽島線⇒沿線市町で運行費を全額負担。
-------------------------	---

事業成果	成果目標	利用者数の増加、路線の認知拡大		
	成果（目標達成状況）	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	評価	理由
			3	・R2年度に新型コロナウイルスの影響により利用者は減少したが、その後は順調に推移。 ・ICカードの利用者が多い。穂積駅からトイカで乗り換えの方が多からだと思われる。 ・大垣桜高校の生徒による通学定期利用者が増加。 ・安八地域から穂積地域への利用が増加している。 ・圏域地域の方々の利用が増加している。

特記事項	名阪近鉄バスへの負担金支払いの状況 ⇒別紙のとおり（「安八穂積線欠損金負担に関する協定書」に基づき、沿線市町である安八町と協調して名阪近鉄バス（株）に支払い。補助率は「安八穂積線における沿線自治体の負担割合に関する協議書」に基づく。）
------	--

担当課による評価

担当課評価	必要性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	評価	理由	運行開始前にアンケートを実施し、当該路線の高ニーズを把握。公共交通は、公共性が高く、特に赤字路線では沿線自治体の一部補助することが多い。現状利用者が少ないが、コロナ過以降、利用者が増加しており、特に大垣桜高校の生徒の通学手段として定着しつつあり、必要性は年々大きく上がっている。
	効率性	・受益者との負担関係は妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	評価	理由	安八穂積線の代替路線の検討、廃線、既存路線の見直し、バス事業者の変更など様々な方向性を検討し、コスト削減や効率化を進め、また、安八町との負担割合の見直しを図り、コスト削減に努める。
	有効性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	評価	理由	実績は事業者が先上を根拠として算出している数値であり適切に測定されている。事業検討に国庫補助を活用し、運行負担金にはふるさと応援基金や事業者を通して国庫補助を活用しており、外部資源を極力活用している事業であるが、赤字路線であり、さらなる利用者増加を目指す必要がある。
担当課今後の方針	1. 現状のまま継続 2. 改善しながら継続 3. 事業規模拡大 4. 事業規模縮小 5. 事業休止 6. 事業廃止	方針	2	理由	交通弱者にとって、バス路線の維持は重要である。地域住民、穂積駅利用者、沿線住民などの現状のニーズを事業に反映させ、効率性や有効性の改善を図ることで事業の継続を図る。

財政局による評価

財政局評価	必要性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	評価	理由	利用者数は低調に推移しているうえ、停留所の箇所からも利用者にも占める市民のニーズは低いと思われる。大垣桜高校の生徒の交通手段の確保は検討する必要があるが、そのために市の財源を用いて市民に負担をかける事は検討する必要がある。
	効率性	・受益者との負担関係は妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	評価	理由	運賃収入及び補助は事業者の収入となり差引が市へ請求があるため、市負担金は財源がなく基金の繰入れ（貯金の取崩し）をしている状況であり、コスト削減には事業規模縮小、廃止以外に選択肢はない。また沿線に大垣市が含まれているが負担金按分がなく効率性が低い。
	有効性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	評価	理由	野田新田地区の国道南側にはみずほバスの停留所がなく、この地域の公共交通の確保には有効であるが、交流人口・関係人口の増が見えて来ないため、当初の目的が達成することは困難であると見込まれる。みずほバスと比較しても市民の利用実績が低く1千万円を投じる効果が認められない。
財政局今後の方針	1. 現状のまま継続 2. 改善しながら継続 3. 事業規模拡大 4. 事業規模縮小 5. 事業休止 6. 事業廃止	方針	6	理由	現在の利用状況からすると、公共交通としての必要性に鑑みても、1千万円を投じて事業を継続する必要性が認められない。地域公共交通会議での審議や関係自治体との協議を踏まえた上で、事業廃止すべきものと判断した。

事業評価シート

事業名	霊きゅう車運行事業		
担当課	市民部 市民課		
事業期間	開始年度：合併（平成15年度）以前		
根拠法令等	瑞穂市火葬場条例、瑞穂市火葬場条例施行規則		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託（委託先： ） <input type="checkbox"/> 指定管理（管理者： ） <input type="checkbox"/> 補助金（補助先： ） <input type="checkbox"/> その他（ ）		
事業概要	沿革・経緯等	経緯等については不明。合併以前の穂積町の頃から実施。	
	目的・必要性 (何のために)	公衆衛生その他公共の福祉のため	
	対 象 (誰、何を対象に)	死亡者又は使用者が瑞穂市の市民	
	内 容 (手段、手法など)	会計年度任用職員1名が従事 霊きゅう車を運転し、葬儀場又は自宅から瑞穂市火葬場まで遺体の入った棺を運搬	

コスト	事業費 (千円)	内訳	会計年度任用職員報酬	令和5年度 (決算見込)	令和4年度 (決算)	令和3年度 (決算)	令和2年度 (決算)
			会計年度任用職員手当等	2,293	2,197	2,126	1,314
			燃料費	894	772	790	561
			車検費用、公課費	63	59	50	50
			保険料	0	100	0	83
			その他	42	50	42	51
		総 額	121	5	24	5	
	財源内訳 (千円)	内訳	国・県	3,413	3,183	3,032	2,064
			市債	0	0	0	0
			基金	0	0	0	0
その他（ 使用料 ）			1,787	1,936	1,854	1,887	
		一般財源	1,626	1,247	1,178	0	
		総 額	3,413	3,183	3,032	1,887	

事業実績	【実績指標名】	単位	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
			(見込値/目標値)	(実績値/目標値)		
	霊きゅう車使用	件	300/目標値なし	329/目標値なし	323/目標値なし	305/目標値なし
			/	/	/	/

見直し・改善状況	霊きゅう車購入：平成29年3月、購入金額：4,349千円、 車検有効期間満了日：令和7年3月23日
	霊きゅう車使用料改定状況 瑞穂市民：平成15年5月 3,150円、平成26年4月 3,240円、令和2年4月 5,500円、 死亡時に瑞穂市民でなかった者：平成15年5月 市民の3倍の金額、平成24年10月 市民の6倍の金額（現在33,000円）

比較参考 (他自治体や民間業者での類似事業等)	・美濃市：1回3,000円、10km超1km増毎1,000円加算、2時間超1時間増毎1,000円加算、消毒を要するもの10,000円
	・垂井町：5,200円、町外者5倍
	・関市、郡上市、養老町、関ヶ原町及び輪之内：無料
・羽島市、大垣市 令和3年度末廃止	
・岐阜市、本巣市、北方町 所有なし	
・市の運転手不在時の業者への運行業務委託料：20,000円	
・民間業者 A社20kmまで16,500円 B社10kmまで37,080円 C社一律43,000円 (市内葬儀場4社中3社が霊きゅう車を保有。うち2社はセットプランに含まれている。)	

事業成果	成果目標	ご遺族に対し、公衆衛生その他公共の福祉の向上を図る。		
	成 果 (目標達成状況)	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	評価 3	理由 遺体の入った棺を運搬することにより、市民の葬祭が円滑かつ適正に行われている。

特記事項	会計年度任用職員：令和2年度は環境課に所属し、兼務で霊きゅう車運行を行っていたため、報酬、手当等の2分の1を計上し、令和3年度からは全額を計上した。 葬祭備品貸出し：葬儀用祭壇、葬儀用屋形ちようちん立てを貸出し、組立てを行なっている。H25 2件、H26 1件、H28 1件、H29年度以降、使用実績なし。 葬祭具消耗品売払：独居高齢者、生活保護受給者等の死亡、死産等の場合、棺、分骨入れ等売払いしている。 弔慰：令和3年度までは弔電を送付、令和4年度から弔文を手交。
------	---

担当課による評価

担当課 評価	必要性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	評価 A	理由 自宅等地域で葬儀をされることが減少し、民間業者に依頼されることが増加している状況の中、火葬場使用者に対し6割以上で市の霊きゅう車を使用しており、公衆衛生その他公共の福祉のため、市が事業を運営することが必要である。
	効率性	・受益者との負担関係は妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	評価 A	理由 令和2年度からの使用料見直しについては、過去3年度分の使用状況を参考に費用対効果等を考慮して設定されており、妥当な水準である。
	有効性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	評価 A	理由 市が事業を運営することで、公衆衛生その他公共の福祉の向上としては達成されている。
担当課 今後の方針	1. 現状のまま継続 2. 改善しながら継続 3. 事業規模拡大 4. 事業規模縮小 5. 事業休止 6. 事業廃止	方針 1	理由 公衆衛生その他公共の福祉及び使用者が増加しているため、事業の継続が必要である。	

財政部局による評価

財政部局 評価	必要性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	評価 D	理由 霊きゅう車の利用件数は安定しており、一定の市民ニーズがあるものと思われるが、これは民間事業者に比べて使用料金が非常に安価であるためと考えられる。当市内においては民間事業者4社中3社が保有しており、行政による運行が必須とまでは言えない。
	効率性	・受益者との負担関係は妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	評価 D	理由 受益者負担の原則からすると、令和4年度事業費+車両コスト（購入価格を10年で按分）の半額程度の料金で運用している状況であり効率性があるとは言えない。また、来年度より会計年度任用職員に勤勉手当の支給が必要となり、今後さらに人件費の増が見込まれる。
	有効性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	評価 C	理由 使用料金が安価な行政サービスに対して市民ニーズがあるのは当然のことである。他市町の状況をもみても事例は少なく、また利用頻度も年間300件程度と少なく、行政が実施すべき事業と判断できない。
財政部局 今後の方針	1. 現状のまま継続 2. 改善しながら継続 3. 事業規模拡大 4. 事業規模縮小 5. 事業休止 6. 事業廃止	方針 6	理由 市民ニーズのみを優先せず、コスト削減意識をもった使用料金改定は必須であるが、民間事業者や他市町の状況をふまえた上で、霊柩車の車検時期や今後車両の修繕等が増える状況を鑑み、事業廃止が適当であると判断した。	

事業評価シート

事業名	長寿者への褒賞金交付事業		
担当課	健康福祉部 地域福祉高齢課		
事業期間	開始年度：合併（平成15年度）以前		
根拠法令等	瑞穂市長寿者褒賞条例、瑞穂市長寿者褒賞条例施行規則		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託（委託先： ） <input type="checkbox"/> 指定管理（管理者： ） <input type="checkbox"/> 補助金（補助先： ） <input type="checkbox"/> その他（ ）		
事業概要	沿革・経緯等	合併以前より実施しており、経緯については不明	
	目的・必要性（何のために）	多年にわたり地域社会の発展向上に貢献された高齢者に対し、褒賞を授与し長寿を祝う。また、市民の敬老精神の高揚を図る。	
	対象（誰、何を対象に）	市内に居住し、かつ住民基本台帳に記録されている者のうち①または②に該当する者 ①当該年度4月1日現在において市内に居住する者かつ褒賞を授与する日まで引き続き居住している当該年度中に88歳に達する者 ②市内に引き続き5年以上居住し、99歳に達した者	
	内容（手段、手法など）	88歳：1万円（全額かきりん振興券）交付 時期：敬老の日の近日 99歳：10万円（半額は現金、半額はかきりん振興券）交付 時期：対象者の誕生日	

		令和5年度 （決算見込）	令和4年度 （決算）	令和3年度 （決算）	令和2年度 （決算）
コスト	事業費 （千円）	内訳			
	総額	2,936	3,032	3,404	2,525
財源内訳 （千円）	内訳	国・県			
		市債			
	基金				
	その他（ ）				
	一般財源	2,936	3,032	3,404	2,525
	総額	2,936	3,032	3,404	2,525

事業実績	【実績指標名】	単位	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
			(実績値／目標値)			
			(見込値／目標値)	(実績値／目標値)	(実績値／目標値)	(実績値／目標値)
	褒賞授与者（88歳）	人	188／目標値なし	188／目標値なし	195／目標値なし	190／目標値なし
	褒賞授与者（99歳）	人	10／目標値なし	11／目標値なし	14／目標値なし	6／目標値なし
			/	/	/	/

見直し・改善状況	平成23年度に対象者を、88歳、90歳、95歳、99歳→88歳、99歳と見直しを行った。 99歳褒賞金額を、100万円→50万円（平成22年度）→10万円（平成23年度）と見直しを行った。 令和3年度に88歳褒賞金の全額を、また令和4年度に99歳褒賞金の半額を地域振興券（かきりん振興券）の交付に代えるなど、他制度との有用性を図ってきた。
----------	---

比較参考 （他自治体や民間業者での類似事業等）	本県市長寿者褒賞（米寿金3万円、満100歳金20万円） 北方町長寿者褒賞（米寿金1万円、満100歳金10万円） 岐阜市祝品贈呈事業（90歳5千円程度、100歳1万円程度 希望者） 羽島市敬老祝金（満75歳金3千円、満100歳金3万円）
----------------------------	--

事業成果	成果目標	地域社会の発展向上に貢献された高齢者に対し、長寿を祝うことにより敬老精神の高揚を図る。		
	成果 (目標達成状況)	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	評価 3	理由 節目の年に長寿をお祝いすることにより、高齢者を敬う心の醸成が図れている。

特記事項	
------	--

担当課による評価

担当課評価	必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か 民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か 目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か 	評価 A	理由 長い間地域社会の発展に対し寄与してきた高齢者の労をねぎらい、長寿をお祝いすることは大切である。また近隣市でも実施しており、社会のニーズに合っていると考える。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> 受益者との負担関係は適当な水準か 他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか 	評価 A	理由 99歳に対する褒賞額については、過去に何度も検討・見直しされてきた経緯があり、現在の金額は妥当と考えている。
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか 活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか 先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか 	評価 A	理由 かきりん振興券を交付することにより、市内事業者の景気の向上に役立っている。
担当課 今後の方針	1. 現状のまま継続 2. 改善しながら継続 3. 事業規模拡大 4. 事業規模縮小 5. 事業休止 6. 事業廃止	方針 2	理由 過去に何度も見直しが行われ、必要と判断され継続してきた事業であり、今後も対象年齢、金額について見直ししながら継続すべきと考える。	

財政局による評価

財政局評価	必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か 民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か 目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か 	評価 C	理由 長寿者褒賞は自治体特有の事業ではあるが、超高齢社会を迎える中で、長寿者の存在は珍しいことではなくなりつつある。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> 受益者との負担関係は適当な水準か 他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか 	評価 D	理由 88歳の者に対する褒賞の授与は右肩上がりで増加しており、今後も増え続けることが十分見込まれる。財源は全て一般財源となっており、削減が見込めない。
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか 活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか 先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか 	評価 C	理由 施設入所のために転入された方も対象に含まれ、長年にわたり地域の発展に貢献された方への褒賞という目的に沿えない場合もある。また褒賞金の授与が敬老意識の高揚に寄与するとは言い難く、長寿を祝う一手段ではあるが、褒賞金が有効に活用されているのかも疑問である。
財政局 今後の方針	1. 現状のまま継続 2. 改善しながら継続 3. 事業規模拡大 4. 事業規模縮小 5. 事業休止 6. 事業廃止	方針 4	理由 これまでも褒賞額の見直しが行われているが、現状のままでは事業費は増加する一方である。対象年齢の引上げや褒賞額の更なる減額等、対象者の精査等を検討し、事業規模を縮小することが必要と判断した。	

市内の他のバスとの比較

	平均乗車密度（人）	1日の便数	輸送量（人）	R4瑞穂市負担額（千円）	(参考) R4他市も含めた負担額
みずほバス（本田七崎線）	7.6	10（土日祝は 8）	69.9	18,923	0
みずほバス（牛牧穂積線）	4.1	12（土日祝は10）	45.7	24,323	0
みずほバス（馬場十七条線）	5.1	12（土日祝は10）	56.9	15,122	0
みずほバス（十九条古橋線）	6.2	11（土日祝は 8）	63.1	20,131	0
岐阜バス（大野穂積線+快速便）	2.3	15（土日祝は12）	27.3	2,634	18,579
名阪近鉄バス（安八穂積線）	1.2	11（土日祝は 9）	11.8	9,991	18,218

用語の説明

●平均乗車密度

1便あたりの平均利用者数。起点から終点まで平均して常時バスに乗っている人数。
 例えば1人が起点から終点まで乗って、1人が中間から終点まで乗った場合1.5人となる。
 数値が上がるほど運行効率性が高まり、収支率も上がる

●輸送量

ある路線が運んでいる旅客の規模を表す。平均乗車密度×運行回数で算出。
 この路線が1日に何人の旅客を運んでいるかを表す。
 数値が上がるほど多くの人がこの路線の恩恵を受けることとなり、社会的便益は高まる。

●負担額

バス運行経費から運送収入等と国県補助を引いた差額で、バス事業者から市への請求額